

東北師範大学留学レポート 2018年4月、5月分

総合理工学部 理工特別コース 数理分野
江角匠平

4月に入り、新学期のクラスメートとの仲もかなり良くなってきました。

祝日の関係で4月5日から7日までの三連休がありました。その連休を利用して、クラスメートを含む十数人の留学生の友達と、5日からの一泊二日内モンゴルツアーに参加しました。内モンゴルではほとんど何もしていませんでしたが、初めての砂漠ということでなんとなく楽しかったです。内モンゴルでの思

い出で一番記憶に残っていることは、砂漠の上に二人用テントを組み立てて韓国人の友達と寝たことです。野外で寝ること自体が初めてだったので、内モンゴルに着くまでは楽しみにしていたのですが、実際に夜になるとかなり寒くて大変でした。特に、5日の夜は天気が悪く、気温は0度を下回り、雪が降っていました。さらに、風が強く、テントが激しくバタついていました。びっくりしたことに、ガイドの人でさえもこんなキャンプは初めてだったと言っていました。すごくポジティブに考えて、貴重な経験ができてよかったと思います。



写真1：内モンゴル4月6日の朝5時

4月29日から5月1日も連休がありました。その連休を利用し、4月28日土曜日の振り替え授業後、30日までハルビンへ行きました。一緒に行ったメンバーは自分を含め日本人三人と韓国人二人です。現地では、異なるルートでハルビンに来ていた二人のタイ人留学生と合流し、食事をしました。ハルビンは、大学のある長春から高速鉄道で行ける距離で、とても便利なところにあります。観光スポットとしてはありきたりですが、ロシア建築（写真2もその一つ）が多く、街並みがとてもきれいでした。ハルビンで学んだことは多くありますが、そのなかでも特に感じたことは、流暢に話すことの重要性です。中国語専攻の友達がレストランの店員と話しているときも、細かいことが伝わらないことがありました。特に、単語と文法が間違っていない状況でも、流暢に話せないと伝わらないことが多々あり、語学の難しさを痛感しました。この難しさは5月の中間テストでも再確認させられました。5月半ばのスピーキングテストでは流暢に話せることが大前提で、その上に他の要求があり、流暢に話せない私がいかに点数を取ることができませんでした。この経験を

生かして、今後の授業では話すことを重視し、観光などに出かけるときは積極的に現地の人に話しかけていこうと思いました。

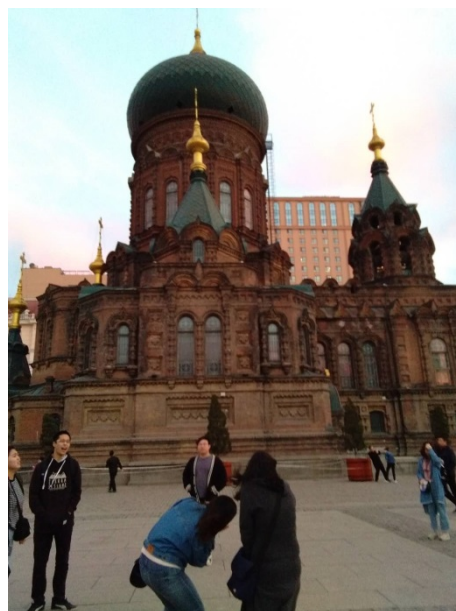


写真2：ハルビン聖ソフィア大聖堂